



発行 一般社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス JSQC規格「TQMの指針」発行にあたって
- 2-私の提言 縁の下の力持ちへの支援
- 2-ルポルターージュ JSQC規格「品質管理教育の指針」講習会ルポ
- 3-ルポルターージュ 第144回講演会ルポ/2022年4月の入会者紹介
- 3-新規研究会メンバー募集/教員公募
- 4-行事案内/選挙告知/JSQC規格頒布

## JSQC規格「TQMの指針」発行にあたって

「TQMの指針」原案作成委員会委員長 安藤 之裕

**TQMの指針をまとめたJSQC規格が発行されました。**

### 規格開発のねらい

これまで、当学会では方針管理、日常管理、小集団改善活動などのTQMの活動要素についての規格を整備してまいりましたが、その基となるTQM自体についての規格がありませんでした。それは、TQMとは、多くの組織の努力により常にその新しい形が提示され続けてきたものであり、画一的な型があるわけではなく、業種・業態さらには各組織のその時々状況により柔軟に応用され、時代の変化とともに進化していくべきものであり、TQMを規格化しようという試み自体が間違っているという見解もあるため、その制定には躊躇せざるを得なかったためです。

一方で、TQMを導入していない組織や導入したものの未だ成熟度の低い組織にとっては、その多様性がTQMをわかりにくいものにしてしまい、導入に躊躇してしまったり、推進途中で方向性を失って迷走したりしてしまう例も散見されています。また、独自性を強調するあまり、基本と大きくかけ離れた自己流のTQMに陥り、成果をあげられないばかりか弊害を生んでしまっている例もあります。

そこで、本規格は、多方面からのいろいろなご批判をいただくことを

覚悟のうえで、敢えて一つの考え方を示し、今後TQMを導入しようとする組織、導入し始めた組織、あるいは再構築したい組織などが、それぞれの実情に適したTQMを構築し始める前に、その土台作り役に役立つように、TQMの基本の推奨事項を指針としてまとめたものです。

### 開発から発行までの経緯

本規格は、当学会規格管理規定に従って以下の経緯で開発されました。

- ・21年1月、標準委員会において開発提案書承認
- ・21年2月から計15回の原案作成委員会・準備委員会を経て原案完成
- ・22年1月、標準委員会での原案の確認と審議委員会の設置
- ・22年2月、審議委員会にて、審議委員会原案作成
- ・22年3月、パブリックコメント募集
- ・22年4月、審議委員会でパブリックコメント対応と規格最終案作成
- ・22年5月23日、理事会承認・発行

本規格は、当学会として初めてすべての会合をリモートで実施して開発しました。今後の規格開発に一石を投じたものだと考えています。

### 規格の内容

本規格は、規格の狙いなどを述べた序章に続き、規格として定型的な1章「適用範囲」、2章「引用規格」、3章「用語と定義」から始まります。

次に4章では、5章以降の具体論を支えるTQMの基本について概説しています。5章では、TQMの前提となる、組織として目指すべき経営目標・戦略が満たすべき条件及びその策定において留意すべき点について述べたうえで、6章ではその経営目標・戦略を達成するために必要な組織能力を明確にし、それを獲得するためのTQMの推進について述べています。7章では、TQMの実践結果に基づいて経営目標・戦略に対する効果を診断・見直すとともに、経営目標・戦略そのものを見直す方法について述べたTQM推進のCAPDを回す方法を述べています。さらに、8章では、7章までの指針に沿って実践してTQMの基礎が整った後、自組織に適したTQMを持続的に発展させていくための方向性について述べて締めくくっています。

### 参考：JSQC規格一覧URL

<https://jsqc.org/jsqcstd/>

なお、本規格に関する第一回講習会を、2022年8月25日にリモート形式で開催いたします。多くの皆様のご参加をお願い申し上げます。

最後に、本規格は開発から発行までの経緯で述べたように多くの皆様の参加を得てまとめられました。この間にご尽力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

## ● 私の提言 ●

## 縁の下の力持ちへの支援

東北大学 永松 陽明



昨年の夏に開催された東京オリンピック・パラリンピックは、日本人選手の活躍によるメダルラッシュとなり、盛況のうちに閉

幕したことは記憶に新しい。海外選手の活躍では、パラにおいて、マルクス・レーム選手が陸上男子走り幅跳びの「片足の膝から下が義足」クラスで、オリンピックの男子走り幅跳びの優勝記録を21cm上回る記録で3連覇を達成した。このようなスポーツ用義足を用いるパラリンピックの競技は、他にも陸上100mや走り高跳びなどがあり、海外選手や日本人選手が活躍し好記録を出し

続けている。その躍進を支える要因の一つとして、スポーツ用義足の進歩がある。また、陸上やマラソン、テニス用の車椅子を開発する企業の取り組みも報道で数多くなされている。

私がかかわる日本財団パラスポーツサポートセンターパラリンピック研究会では2018年から2019年にかけて、パラスポーツの用具開発についての実態調査を実施した。回答企業・組織から、パラスポーツへの取り組みには一般製品への波及効果があるとのコメントを多く得た。具体的には、パラスポーツの技術開発を通じた「先端的な素材の取扱」、「新構造の検討」、「用具の精緻な調整」などの試行錯誤による獲得知識が、一般製品に応用・転用され、一般の消費者にメリットをもたらしていた。また、パラ

スポーツへの取り組みは海外での知名度向上などで効果があり、採用面でも就職を希望する人が増えたとコメントもあり、様々な効果を確認できた。

一方で、「公的支援が既存メーカーに十分行き渡っていない」「多くの支援・取り組みは選手個人に照準を合わせたもので、競技団体などの人材育成・技術開発の計画は十分でない」といった指摘もあった。確かに東京パラへの支援は急速に膨らんだが、多くは人目に触れやすい部分に短期集中している面がある。

選手の活躍を支える「縁の下の力持ち」への支援はもっと手厚くすべきである。エンジニアたちは多くの時間や技術をつぎ込み選手をサポートしているが、大きな収益を得ていない。

こうした基盤となる分野への投資が停滞する傾向は、多くの業種で見受けられる。研究においても時間がかかる基礎研究に対して似たような状況にあると聞く。どの分野、企業においても今一度の「縁の下の力持ち」の貢献評価が必要ではないだろうか。

JSQC規格  
講習会  
レポート「品質管理教育の指針」  
—TQMの実践に必要な  
人材を育てる—

2022年4月25日(月)午後、JSQC規格「品質管理教育の指針」の講習会が開催されました。2017年の当規格制定以降、今回が4回目で、前回に引き続きリモートでの開催でした。どこからでも参加できるというリモート開催のメリットもあってか、全国各地から35名の参加がありました。講師は、早稲田大学教授でJSQCの会長でもある永田靖氏でした。永田先生は、本規格の原案作成委員並びに審議委員でもあります。

組織がTQMを適切に実施、推進するためには、組織の一人ひとりが基本的な原則を理解し、方針・日常管理、小集団活動、品質保証などの具体的な活動に取り組むことが必要であり、それらを適切に行う能力を持った人材の育成が必要です。そのための品質管理教育を計画・実施・評価・改善する場合の指針を定めている本規格について、補助資料を使用して、講習会はすすめられました。

補助資料は、とてもわかりやすくまとめられており、丁寧な説明と相まって、規格の内容がスッと頭に入ってくる感覚を参加者は味わったのではないのでしょうか。また、永田先生のご経験がエピソードとして盛り込まれたり、諸先生方の言葉が紹介されたりと、興味の尽きない講義内容となっていました。さらに、規格4章の「品質管理教育の基本」から、9章の「TQM推進段階別・部門別・地域別の品質管理教育」まで、章あるいは節ごとに確認テストが用意されており、参加者が考える時間も取られていたおかげで、一人ひとりが、規格の重要なポイントを、その場でしっかりと復習できたものと思われま

す。講義の最後には30分強の質疑応答の時間も取られ、8名の参加者からの質問やコメントをベースにした議論により、講義の内容が補強され、参加者全員にとって有益なコミュニケーションとなりました。

あらゆる企業・組織で、問題解決をベースとした品質管理教育を実践していくことの必要性を理解できた充実した講習会でした。

内海 洋 (日本ムーク株)



## 第144回 講演会 ルポ

### 顧客価値を創造し続ける スマートコンストラクション 最新の挑戦

2022年5月13日に第144回（中部支部 第61回）講演会がオンラインで開催された。上記テーマで、講演者は四家千佳史氏（株式会社小松製作所 執行役員 スマートコンストラクション推進本部長）、参加者は計68名であった。

（株）小松製作所では、モノビジネスからコトビジネスへのチャレンジとして2015年2月から「スマートコンストラクション」をスタートさせている。従来の土木工事は、ヒトが中心となって①調査・測量→②施工計画→③施行および施工管理→④検査という工程で行ってきた。スマートコンストラクションではデジタル化を徹底し①調査・測量はドローンによる3D計測→②施工計画はITによる3D施行計画・シミュレーション→③施工・施工管理はICT建機とアプリで実施→④検査はドローンによる3D出来形検査を行う。全プロセス

がデジタル化されつつあり、IT使用によって各工程の見える化を進め、工程間のつながりを徹底的に可視化し、全工程の最適化、効率化を図り、大きな価値が創造されつつある。具体的な例として、ドローンで測量した3D計測図から対象地域での削除すべき土量を計算し、それを運ぶ重機トラックの運行距離、台数から工程期間が迅速に割り出せるとの説明があった。建設業界では、2026年には126万人の労働力不足が予測されている。従来のように多くのマンパワーを使って現場監督の経験知に基づく判断、施行指示による工事遂行ではなく、ITを駆使して計画、設計、施行、検査、維持管理までの全工程を可能な限り可視化し、コンピューターが示す約3兆通りもあるプロセスの組み合わせの中から最適解を選んで実装するというスマートコンストラクションは、新たな顧客の価値創造を目指し益々発展していくものと思われた。

医療界でもスマートホスピタルの実践に取り組んでいる病院は増えているが、まだまだスケールは小さいと感じた次第である。

齊藤 雅也（総合犬山中央病院）

## 2022年4月の 入会者紹介

2022年4月14日の理事会審議において、下記の通り正会員2名、準会員2名、職域会員1名の入会が承認されました。

（正会員2名）○米澤 昭一（ニチアス）

○柴田 和彦（厚生連高岡病院）

（準会員2名）○佐藤 寿留（青山学院大学）

○脇本 拓海（電気通信大学）

（職域会員1名）

○西谷 哲弥（日本ムーグ）

名誉会員：22名

正会員：1699名

準会員：45名

職域会員：49名

賛助会員：153社225口

賛助職域会員：13名

公共会員：17口

## 新規研究会メンバー募集

### AI品質アジャイルガバナンス研究会

AI品質アジャイルガバナンス研究会の研究会メンバーを下記の通り、募集いたします。

主 査：平田 雄一（デンソー）

開催日：毎月1回開催予定

場 所：Web会議室（Zoom）

申込方法：本部事務局宛に会員番号・氏名・所属・連絡先を明記の上、

FAXまたは E-Mail (jimukyoku@jsqc.org) にてお申し込みください。

募集定員：11名

## 教員公募

### 早稲田大学 創造理工学部 経営システム工学科

募集人員 教授、教授（テニュアトラック）、准教授、准教授（テニュアトラック）、専任講師、または、講師（テニュアトラック）1名

所 属 早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 経営システム工学科  
／経営デザイン専攻

研究分野 次のいずれか、または双方の分野（1. 生産マネジメントに関する分野／2. システムマネジメントに関する分野）

着任時期 2023年4月1日、またはそれ以降のできるだけ早い時期

応募締切 2022年8月25日（木）必着

詳 細 早稲田大学 理工学術院 公募・採用

<https://www.waseda.jp/fsci/tag/recruiting/>

早稲田大学 教員公募

<https://www.waseda.jp/top/about/work/organizations/academic-affairs-division/faculty-recruitment>

## 行事案内

### ●第130回研究発表会（関西）発表募集

日程：2022年9月16日(金)

会場：関西大学千里山キャンパス(予定)

発表申込締切：7月1日(金)

予稿原稿締切：8月26日(金)必着

詳細：[https://jsqc.org/130technical\\_cfp/](https://jsqc.org/130technical_cfp/)

### ●第129回クオリティトーク（東日本）

テーマ：生産管理と品質管理

ゲスト：木内 正光 氏（玉川大学）

日時：2022年7月8日(金)18:00～20:30

会場：Zoom会議室（オンライン）

詳細・申込：<https://jsqc.org/129qtalk/>

### ●第176回シンポジウム（中部）

テーマ：「お客様の声から価値創造」を考える

日時：2022年7月21日(木)13:15～17:00

会場：Zoom会議室（オンライン）

プログラム：

基調講演 お客様の期待を的確につかむ

女性視点の価値創造マーケティング

日野 佳恵子 氏（ハー・ストーリー）

事例講演 バスコファンを獲得！

山田 真彦 氏（敷島製パン）

事例講演 ワークマン式ユーザーイノベーション

「アンバサダーマーケティング」について

林 知幸 氏（ワークマン）

パネルディスカッション

司会：梶原 千里 氏（静岡大学）

詳細・申込：<https://jsqc.org/176sympo/>

### ●第177回シンポジウム（関西）

テーマ：製造業における品質不正防止に

向けた具体的施策、技術者倫理教育

日時：2022年7月25日(月)13:15～17:00

会場：Zoom会議室（オンライン）

プログラム：

講演1 技術者倫理の実効性のある実践  
メカニズム

野瀬 正治 氏（関西学院大学）

講演2 組織倫理／技術者倫理の実践と  
技術者の責務

細谷 陽三 氏（細谷技術士事務所）

講演3 品質管理者から見た技術倫理と  
技術者倫理の重要性

奥野 利明 氏（奥野技術士事務所）

パネルディスカッション

詳細・申込：<https://jsqc.org/177sympo/>

### ●第432回事業所見学会（西日本・オンライン）

日時：2022年7月28日(木)13:30～16:30

見学先：トヨタ自動車九州(株) 宮田工場  
記念講演

会場：オンライン

詳細・申込：<https://jsqc.org/432visit/>

### ●第146回講演会（東日本）

テーマ：脅威を防ぐ製造業のサイバー  
セキュリティ

日時：2022年8月3日(水)13:00～17:00

会場：Zoom会議室（オンライン）

講演者：佐々木 弘志 氏

（フォーティネットジャパン）

詳細・申込：<https://jsqc.org/146lecture/>

### ●第145回講演会（関西）

テーマ：after CORONA時代のビジネスモデル

日時：2022年8月19日(金)13:00～16:10

会場：Zoom会議室（オンライン）

プログラム：

## 代議員・役員選挙告示

日本品質管理学会第52年度～第53年度（2022年11月12日総会～2024年総会）の代議員ならびに役員選挙を次の日程で行います。

立候補・推薦受付：

6月21日(火)～30日(木)

投票期間：8月1日(月)～31日(水)

開票日：9月8日(木)

講演1 新しいビジネスモデルとDX

兼安 暁 氏（DXTコンサルティング）

講演2 DXとカーボンニュートラルへの取り組み

福本 勲 氏（東芝）

詳細・申込：<https://jsqc.org/145lecture/>

### ●第129回研究発表会（中部）

日程：2022年8月24日(水)

会場：Zoom会議室（オンライン）

### ●JSQC規格「TQMの指針」講習会

日時：2022年8月25日(木)13:30～17:30

会場：Zoom会議室(オンライン)

プログラム：

1. JSQC規格「TQMの指針」制定のねらい
2. TQMの基本（第4章）
3. 業種・規模・事業環境に応じた明確な顧客指向・社会指向の経営目標・戦略の策定（第5章）
4. 経営目標・戦略の達成に必要な組織能力の明確化と獲得のためのTQM推進計画の展開研修プログラムの運営（第6章）
5. 実践結果に基づく診断と見直し（第7章）
6. 持続的成功に向けたTQMの実践（第8章）
7. 全体討論（質疑応答）

詳細・申込：[https://jsqc.org/std11-001\\_2022/](https://jsqc.org/std11-001_2022/)

### ●第130回クオリティトーク（東日本）

テーマ：カイゼンと問題解決の本質と実践

ゲスト：古谷 健夫 氏

（クオリティ・クリエーション）

日時：2022年9月13日(火)18:00～20:30

会場：Zoom会議室（オンライン）

### ●第52回年次大会（予告）

日程：2022年11月12日(土)

会場：中部地区

## 事務局からのお知らせ

### JSQC規格頒布のお知らせ

この度、下記の成果がまとめられましたので、ご希望の会員の方に実費で頒布いたします。

#### JSQC規格 Std 11-001 「TQMの指針」

1. 申込方法：下記URLよりお申込みください。

詳細・申込先：<https://jsqc.org/jsqcstd/>

2. 資料代：1冊（A4判30頁）会員1,200円、非会員1,500円（税・送料別）

振込み先：一般社団法人 日本品質管理学会

三菱UFJ銀行 渋谷支店 普通預金 4313820

資料は入金を確認の上、送付いたします。